

第 44 回東北建築賞(業績賞)選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

「古建築を対象にした放射性炭素年代調査法の開発と応用」

受賞者 中尾七重（山形大学理学部研究員）

欧米開発の放射性炭素（14C）年代測定法を、日本の古建築年代調査に適用し、これまで数多くの歴史的建造物の建築年代判定に貢献したことは高く評価される。

従来、この方法は木材最外年輪の形成年代を確率で示すのみにとどまるが、中尾氏は、建築年代を判定するために、自然科学的手法と建築史学的方法を組み合わせ、古建築に適した 14C 年代調査の手法を開発した。具体的には、調査試料の採取は、見え隠れや割れ傷み・風蝕を利用し、材の損傷を最小にする試料採取方法を考案した。こうして得られた部材年代と、建築史学の痕跡復原調査法による建物の変遷を照合し、建築年代を決定した。さらに他の調査法のデータや既往研究と比較照合し、建築年代の検証を行なった。

このように、「ただ測る」のではなく、最終的に建築年代にたどり着くための部材選択と、「測定結果」に基づく「部材年代」判定と、他の方法のデータや古記録との照合から、真の「建築年代」を得る一連の手法を用いて、今日までに東北地方を中心に、古民家 62 件、町家 16 件、社寺等 29 件の年代調査を実施した。その結果、東北の民家の価値を高め、文化財活用や文化財指定・保存修理に寄与した。

以上のように建築史学における 14C 調査研究手法を開発し、質の高い古建築 14C 年代調査を行い、古建築の調査保存活用に多大な貢献をしたことから、東北建築賞（業績賞）にふさわしいと判断した。

第 44 回東北建築賞(業績賞)選考報告

選考委員長 飛ヶ谷 潤一郎

「福島県における地域文化財の保存修理・復原の設計監理に関する長年の取り組み」

受賞者 溝井宇一（有限会社溝井宇一建築事務所代表取締役）

溝井宇一氏は、東北工業大学在学時に大内宿や福島県の古民家調査に携わり、以降も一貫して氏の出身地である福島県の歴史的建造物の調査・復原・保全に取り組んできた。

1987年に建築事務所を設立したのちも、その姿勢は変わらず、担当した移築・保存修理・復原・活用事業に関する設計監理業務は福島県内で17件に及ぶ。その範囲は民家を中心として、旧広瀬座、旧石澤家茶室・八槻家神官、旧会津郡役所、旧渡部家住宅など多岐に及んでいる。

これらの大半は地方自治体において地域文化を継承するもので、単なる展示物にとどまらず、地域住民の集まりや文化活動の場として日常的に活用されており、今後の文化財保存修理手法・保全活用事業に対して新たな方向性を示すものである。

溝井氏の文化財建造物に対する基本姿勢は、ヘリテージの根本に流れる価値観の継承であり、伝統的構法を維持しつつ新たな文化的価値を高めていくという、一種のアーキテクチュラル・イノベーションの域にあるものと評価される。そのため、溝井氏が復元保全設計管理に携わった地域の文化財建造物は、地域の身近な歴史的建造物が急激に消滅しつつある現代社会において、ヘリテージ・マネージャーの手本とも目される活動領域として高く評価される。

以上より、本業績は東北建築賞（業績賞）に値すると認める。